



忠實の行状日記

初編

四

龍巻

47
透16
JF3
4



通門
883
卷々

忠勇阿佐倉日記初輯卷之四

東都

松亭金水編次

明治三十二年
一月十日
購

第七

春心一たび動く佳人の情
才子道を述べて媒と諭を

拾遺和歌集哀の部小音なり川の川とぞけひ小流も出流のいと人
おりの人の涙いと清浦朝花の輝きけん実よ人忘れぬ衣袂の涙の積
りたる淵なるとも思ふ牙のきなり川とぞけひ小流も出流のいと人
宅平が渾家の物語ゆへ虎次郎が傍へ立ちて平生小床をくりぬけ
り。徳守松典明神の祭祀祀ふとて又徳共のゆかり角瓶の傍より到
り。虎次郎が相撲のありきと誰とてその取組で拵をせむらひの

河左衛門刀編巻之四

あまき安くと持裸して脱小その目の最子となつた。その身ぶりの美の
 郷の名でさ下を愛う。と人の養罵は夢で漫徳が小振くて程その
 容を観てげう小神而小於てち夫と揚ふそのうち拳舞りてさう勝
 ち小も誇る色なく悠然するその景勢も白く眉秀脊るくして渾
 身肥え威あまも猛うも情えさくその昔真田守市義忠が面うけ
 ざ小も此人小ゆる信トとあふまを心小愛うて見惚て在りか穉大う小果
 ぼよ及び父喜代平が妻とと促げをま小蘭の足をもぬるの心地はま
 れど何れ手を初てあまきなう秘の跡小心を遺しつ着近く家小
 飯まで程虎虎昂が傍ハ眼の前小秘えの隠まら。恋慕の心ひ頻く
 として。且若小そのよめと思ひ若く成とまら物冷ゆるま志は

まで小思ひ棄けりゆのまき。固より活る正まど成稚小かきん術ゆひけ
 る。や胸一ッ小浮若て。ななめ勝ゆぞ明若も小却て父母の心もつど。
 ち尾嘆のそその風情で心よとまきと曉るう人あまおの言葉の
 縁に觸て虎次郎が情まんどのひひやて。まきが必成ひ死えう小波と
 養係とたのち秘び穉と殺けて傍るとたの何となく不興あるも。
 まで年足らぬ未通女をまき心小畏む術とあまど必成比面小彰成
 を尾嘆のよくゆ秘てさうて。実小小係と小女児ハ油断あうと世の
 常言も虚言ハあざりけり稚とたより傍小在てまきつりける死
 童ぞと思ひまらうとい鈍う。算あまま十まり七の何時まを童である
 ごと嫁娶しあふぬの来ぬる小生心の情をやあまん。釣まを魚れまよのて父小

河左衛門編

も母もよく言して彼方へ嫁入るる良人ある宛平が為小由始終宜死
 とあり。まご彼家代に庄屋むの容ゆの似むと又ど田島も多く所
 持たへ。その家ゆの控倍まり。虎次孫れも蘭地毒と常よりよき
 嬢子と床あくもふて居る人。この速小替あぐ。この思へども此方一人見
 是より筒も彼方此方便をあらめてわやかと。言入らるる人ゆわれど両親兼
 引ぬぬの婿をさるるさるる流あん。さらば彼方もま一人見たり。此方へ婿小
 来べらるるも然まの懇小言出るとも。画餅ゆやわんともふ。猶惜き
 てふ思ひて。時便宜と窺ふめり。んを人とて男女小限らむもさき間を心
 緩くぞ研思ひたり。あまの夜も昼も控忘れむ急小思と為さんとする
 あり。多々の事と過なり。是とつらるる故ぞとつ小血氣餘りて思慮足ざるこ

次青小奉と経るふ及び血氣既小定まりての性自然緩くたりて其過解を
 くらふ。もは飲食男女の所い人倫の大徳なり。と故人の金言千古貫き
 老少多くて不惑小。是れとも年困る世間と憚り茶理と考へ自ら見
 て禁ずれとも。少奉の今人如く。血氣餘りて思慮足らば堪忍多りぞ。と
 迫りて言とならぬを。再説蘭の性質。怜惻處女なり。けむ惑る心と
 把直。如何小。思ひ絶んと。日未だ今一筆あんと。膝のわたり人引りて。
 揺擦り。心と違れと衣かき。獨寐も。夜も。結むぬ。夜あくと。心盡一の唱
 う。さへ。結向。ひの種と。ちり。忘まん。と。し。ど。ま。胸。小。ほ。と。つ。と。切。る。さ
 小。下。何。も。懶。く。て。羞。ぬ。さ。た。多。心。比。忍。と。く。所。を。夜。も。救。回。な。り。け。む。が。兩
 親。も。今。漸。く。常。あ。ぬ。容。小。心。着。年。終。る。女。兒。小。舞。の。舞。ひ。や。も。あり。

若もまの萌るや然もあふよき醫老の業をあらめよ一の保長さすふ
起してなり。あの頃まけに心ちの觀事の境内小懸網上の觀場あり。亦大坂
での鞍も入取りと人の學定めく此処でも振りとす。近き小彼如くおのれ
て終日小慰ません若もよかぬとある。都北野の天満宮の閑忙ありと
空のよぶさあくの眞宝什物まで町より奉納せる思ひくの作りの所迫を
飾まりとをまより祇園清水より。まゝ大内の貴妃さるも觀せらるばらよ
ふた保長あらん操を森枝の芝居もあり。おま任して經巡るべし。と觀
なまをくそおまを小切あつ心の夫婦が高張陸小風まき蘭ハ人志且は
とそ思ひしが。休の何れも務小女常少のわ容貌病あんとあおれま
苦勞さうけまらばる男への身の飛恐しゆら小の做くそをみで思ひ絶

むと勵まむと心弱くても更小基づ胸を困る。ゆもふきよの蟹小
舟浪小揺ゆ如くゆを魂も身小副ねまを思ひ浮若さう小けり。折う
今日八日折も思ひ一人淋ま子舍の裡観引をせゆん物書てわをの処へ
障をすつとて引因入まを尾嘆ありまといるう蘭の書らるものと傍へ
搔遣り。此頃ハのりさや四五日の顔ゆる身を若も心地の平生あるぬ。と素
かて居うるとの小に受尾嘆ありとち笑あま。對ひ小坐すを辛末の世別
深甲斐の聊の障うとあつて積未ね。如らゆと素ト佐多ハ志の辱るま
仇の思ひまをまをま小つけてもまも吾儕が案トまわもまの上人の
病の器とまうせの時小きを種この。焼らひわあつものまも。常むい
も健ぬ感胃のみとまななく推ま折より喪氣も在さば西觀むとの

可左舎の編巻之目

己を。よろこ。ま。す。て。あ。ら。ま。の。程。何。と。あ。う。夜。も。何。ら。と。ね。替。の。
 ぼ。び。つ。り。の。心。小。盛。の。心。在。ま。る。我。れ。の。吾。儕。之。人。共。一。穴。へ。入。り。心。比。を。す。
 なり。先。頃。も。何。某。あ。る。医。師。を。診。せ。り。と。も。さ。う。小。病。の。心。比。と。ま。じ。さ。は。
 ま。い。の。う。心。小。盛。の。心。の。所。あり。て。心。力。の。弱。し。の。心。と。是。一。恙。然。ん。の。
 何。小。ま。も。吾。儕。之。隔。の。あ。ら。ま。の。心。比。を。思。ふ。隨。心。の。心。比。を。善。の。善。の。計。
 ら。ひ。て。望。を。成。果。一。事。と。ま。す。と。結。を。同。ま。て。蘭。の。心。比。を。笑。む。の。物。も。
 つ。ぎ。で。尾。端。の。端。も。ま。り。傍。々。後。上。下。の。等。と。め。り。は。吾。儕。も。女子。の。
 端。々。心。比。を。情。の。担。お。り。て。何。れ。七。其。身。の。年。齡。少。く。顔。比。望。を。種。々。
 扱。七。茶。八。茶。の。頃。ま。の。物。心。比。を。あ。ら。ま。の。心。比。を。衣。も。の。心。小。頰。を。
 へ。且。暮。小。飲。食。を。思。ふ。外。化。る。の。心。比。や。十。茶。を。う。ろ。小。及。び。て。い。は。さ。ま。

衣。が。縮。む。なり。實。一。さ。の。心。比。も。任。せ。ぬ。と。の。心。比。を。寝。徒。に。祝。の。
 心。と。痛。む。ま。て。十。四。五。小。及。び。て。祝。の。心。比。富。も。辨。へ。あ。ら。ま。の。雅。き。時。の。如。
 く。あ。ら。ま。の。衣。裳。よ。う。い。て。髪。の。飾。り。人。並。あ。ら。ま。と。慚。思。ひ。密。に。已。ぶ。心。を。
 痛。め。て。さ。う。死。人。の。羨。ま。る。心。苛。め。ら。れ。何。の。爲。を。畢。竟。その。心。比。と。暉。ら。に。往。
 り。人。小。祝。せ。んと。ま。る。の。心。比。を。若。れ。び。て。人。毎。ま。り。と。好。く。姍。姍。め。き。に。操。弄。心。
 あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。未。通。女。の。事情。なり。ま。と。除。き。祝。の。心。比。を。任。ぬ。る。の。
 程。の。苦。勞。の。心。比。を。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。
 何。れ。ど。流。石。の。衣。裳。髪。れ。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。
 こと。琴。之。人。の。愛。情。ま。を。文。小。祝。り。て。彈。小。の。心。比。を。花。路。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。
 顔。比。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。あ。ら。ま。の。心。比。と。

尺八巻一

ちのきと切小同きと思ひのこを明く地ふいそんも不測ふれが少一面被敷う
 まで今もそ方のり人通り蟹の東西より流りの衣裳流ゆの望すほど廓で
 高ふのもあふ自意心易く多くあわれむ不足なり。任意不足のあれがそ
 人を羨む心持ばといひも果ぬ小尾喉の微笑そのうろろぬの作せふなるは
 ままぬらなるとおれまを小深く物とぞ思ひのその故由と頼く宜へ心足りぬ
 吾儕あれど大に推せしむあり若も自意のひひらととと慙らひのふらう。辻
 占ひあつたねど心と愛まうまじく押お身の替とと心で慙まうふのの先頭
 禊の祭祀のと角瓶の最手とたうり人の故やあつぬべ。その折よりと吾
 俯いおろしその心の便をふ表とちて塔君ふ做らる然とそ俱く小娘うら
 めとあひつ。寐物語よ良人ある。宅平ふさしいひぬとと彼も此も一人見ふ。

在るる言ふその言出らうとも整りや。常言よりいふ者日と小味
 とすの月日過ぎが嫌さるも初めれ思ひ隣かん。そのまゝ垂れといひの
 むもさう後の色ぬもむもぞ探さの容を窺ふに日小漆ひ月小流ふて
 つよく思ひの源さる常少の愛は景勢えまう子と胸との痛め更
 小径方をぞのせんと此頃の良人小答あうあすも日毎よ業ト苦う
 が思ふのこゝの緯ゆも一休推なく在まんとたより。鶴恩をうけまじ
 づ。此の月小あまが何処までも流れて異見まうまのが誠のなまをま
 ども。開いせ小まうま顔ゆ情をまぬ者小あまり。たどるが及小差ふ
 とも。恙しと思ひ嫌さるの顔ひ惚へてまうせん。と物別居て今日あまりぬ
 恙もあまの心と果まを明らうとて。彼方さる人も折らぬ夫となく



むんを。滑りて心引く。小不承のあはれ風情あり。いふ吾儕が推察に
 差ひあはびの細々と。此消息とあり。吾儕亦持来りて。返して来るべし。
 此の恐ろしき。口も心も。身も。科も。顧も。使も。務めん
 とす。心を推し。心後。赤心。ええ。いひけ。蘭の今。さう。不承。たこと
 限りのあけ。と。初ま。尾。い。あ。何。時。ま。う。隠。ま。さ。若。ト。心。も。明。て
 その媒を。憑。ま。ん。ゆ。と。今。ま。を。積。る。思。ひ。の。さ。け。で。よ。れ。や。不。承。知。じ。さ。ら。が
 左方の。ゆ。ゆ。一。筆。の。消。息。と。来。り。て。あ。と。い。ひ。掛。て。及。け。る。顔。不。承。示。と。笑
 を。含。め。ら。蘭。が。胸。の。う。ま。と。想。像。尾。笑。の。相。ま。ら。ゆ。う。と。俟。と。半。時。可
 あり。一通の。又。認め。畢。了。通。と。せ。が。尾。笑。の。け。把。て。程。も。あ。ら。ち。出。が。頼。て
 虎。次。弟。が。方。子。到。り。入。る。と。虎。次。弟。の。一。人。子。舎。引。籠。で。あ。り。け。め。ぞ。よ。し。

僥倖と。彼。然。へ。ゆ。れ。ま。が。寒。暖。の。安。否。と。訪。ひ。さ。て。四。方。八。方。の。物。語。と。そ。の
 便宜を。窺。へ。ども。元。こ。と。不。良。の。條。を。れ。ば。心。不。恥。ん。左。右。な。く。い。れ。子。と。蹶
 踏。け。ら。何。れ。ま。を。初。め。あ。ん。や。と。頼。て。小。膝。を。進。め。り。和。君。も。縁。て。知
 め。に。絹。屋。の。女。兒。蘭。の。妻。が。元。の。主。人。なり。先。頃。より。何。と。な。く。何
 ら。ひ。り。さ。さ。小。不。承。の。固。より。妻。ま。を。心。を。盡。し。種。と。の。い。ふ。け。れ。と。功
 發。も。あ。ら。ま。が。心。不。此。を。り。思。ひ。ま。ま。う。と。あ。ま。い。人。を。折。て。窺。ひ。て。蘭
 の。を。責。問。し。ふ。あ。ま。い。差。ひ。れ。その。原。ハ。和。君。を。恋。て。の。病。な。り。丹。ハ。怪。う。び。然。ハ
 わ。き。あ。の。候。あ。ら。ま。今。も。絶。ん。と。さ。ら。い。と。進。め。頼。て。思。ひ。の。さ。け。で
 筆。不。い。を。持。て。来。り。ぬ。あ。の。れ。色。よ。き。返。し。と。賜。り。の。あ。ら。ま。扁。鵲。が。葉。に
 倍。る。功。あ。ん。い。ふ。不。承。引。入。る。と。あ。の。一。封。を。把。出。せ。ば。虎。次。弟。ハ。こ。と。と。

ミンクも小ごも把らぬを改め。這ハ近曾云ぬが。汝ハ女のみありて
 道とつとて知れぬもわん吾苟も祖先より。この邑の長みく人を教導を
 官の職なり。勿論今の子舎住みて。その職を共にせぬと牆を踏んで夏子と
 ひく人の陋志む所あり。傭夫奴隷も推心を争その言の従はらん。
 まま汝も思ふて見よ。主人の女兒が妬争の心より。親の許さぬ漢士と慕
 ひて病を発をまづ。才一不孝不義の上のわんくを。汝も汝の婢女と
 ぞ。強て諫め諭さんとせむ。空言と書録さ。媒ありて吾も偶々
 奔野合の辱を被らせんとて。返さくも麻忽なり。頓持飯アそちの
 才と畏まむと言い。謝らんと。及て立する一言も尾喚ひ何と返さむ。云業
 だたを居たり。良あつて改を擡げ。つと由和君の作まる如く。嬢も女

といひ吾儕といひ。及し不測するなり。と辨まぬ。あつねども一回和
 君と祝て。一より。此生の縁う且暮小。玄州茂と夏野也。牡鹿の角の
 束のつらも。思ひ忘は。間のたぐ。人志れぬ。袖の赤。記居。懶く。面瘦て。室
 の八島の。そまな。煙いとえぬ。胸のうち。何時病小。柴の下。燃り。づ
 也。心根。根。も。哀。ま。さ。さ。任意他。あ。不忠の。誅。未。来。の。阿。鼻。焦。熱
 の。苦。し。き。艱。も。あ。は。あ。ま。事。和。君。小。愛。え。あ。げ。望。ま。を。果。一。糸。う。せ。て。楸。び
 め。人。教。を。せ。て。祝。す。秋。さ。の。一。念。小。良。ら。ぬ。所。為。と。わ。り。つ。も。この。事。ま。ま。と
 肯。が。て。あ。ら。の。の。今。の。ど。ま。え。あ。の。の。道。理。然。と。て。是。と。明。く。比。小。言。ま。が
 い。や。歎。き。小。所。未。通。女。の。揆。き。心。う。い。ふ。成。ゆ。え。あ。ん。ま。と。く。つ。の。ま。小。
 か。り。堅。固。の。う。衰。く。妻。が。才。さ。く。法。共。は。消。よ。思。ひ。歎。う。は。苦心。の。や。と。を

想像（ひとあや）の一毫のほ返（ひとあや）と只（ひとあや）管小（ひとあや）と事（ひとあや）とと餘（ひとあや）養（ひとあや）もなげおぞまじけり。
 爰下虎次（ひとあや）弟の面（ひとあや）と和（ひとあや）らげ今（ひとあや）のひ（ひとあや）より公道（ひとあや）とてまづ一通（ひとあや）の法（ひとあや）とひ（ひとあや）のこ
 吾（ひとあや）とて元木石（ひとあや）あ（ひとあや）るぞ人の情（ひとあや）のあ（ひとあや）ら（ひとあや）る（ひとあや）ん（ひとあや）珠（ひとあや）は彼（ひとあや）蘭（ひとあや）の眉（ひとあや）目（ひとあや）貌（ひとあや）といひ
 之（ひとあや）展（ひとあや）奉（ひとあや）勅（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）心（ひとあや）の傍（ひとあや）げ（ひとあや）ある（ひとあや）親（ひとあや）小（ひとあや）孝（ひとあや）あり下（ひとあや）と憐（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）女子（ひとあや）の業（ひとあや）も疎
 う（ひとあや）び（ひとあや）と時（ひとあや）人の号（ひとあや）ふも（ひとあや）受（ひとあや）事（ひとあや）毎（ひとあや）小（ひとあや）床（ひとあや）も（ひとあや）思（ひとあや）ひ（ひとあや）る（ひとあや）所（ひとあや）未（ひとあや）通（ひとあや）女（ひとあや）ある（ひとあや）を嘘
 小（ひとあや）も吾（ひとあや）とあ（ひとあや）ら（ひとあや）と受（ひとあや）心（ひとあや）小（ひとあや）嬌（ひとあや）と（ひとあや）思（ひとあや）ひ（ひとあや）る（ひとあや）ん（ひとあや）然（ひとあや）も（ひとあや）ど（ひとあや）も（ひとあや）开（ひとあや）と（ひとあや）僥（ひとあや）倖（ひとあや）小（ひとあや）忍（ひとあや）び（ひとあや）あ（ひとあや）ら（ひとあや）彼
 と契（ひとあや）ら（ひとあや）ば（ひとあや）女（ひとあや）子（ひとあや）あ（ひとあや）の（ひとあや）よ（ひとあや）き（ひとあや）漢（ひとあや）士（ひとあや）ある（ひとあや）ま（ひとあや）ど（ひとあや）も（ひとあや）博（ひとあや）識（ひとあや）人（ひとあや）の何（ひとあや）と（ひとあや）の（ひとあや）ん（ひとあや）と（ひとあや）も（ひとあや）吾（ひとあや）厭（ひとあや）不（ひとあや）所
 かり（ひとあや）。凡（ひとあや）人（ひとあや）間（ひとあや）万（ひとあや）の所（ひとあや）化（ひとあや）人情（ひとあや）を專（ひとあや）とす（ひとあや）れ（ひとあや）ば（ひとあや）公（ひとあや）道（ひとあや）小（ひとあや）関（ひとあや）と（ひとあや）あり（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）公（ひとあや）道（ひとあや）と
 立（ひとあや）ん（ひとあや）と（ひとあや）す（ひとあや）れ（ひとあや）ば（ひとあや）人（ひとあや）情（ひとあや）小（ひとあや）竭（ひとあや）と（ひとあや）あり（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）ん（ひとあや）小（ひとあや）於（ひとあや）て（ひとあや）公（ひとあや）道（ひとあや）人（ひとあや）情（ひとあや）共（ひとあや）小（ひとあや）全（ひとあや）う（ひとあや）す（ひとあや）と（ひとあや）難（ひとあや）し（ひとあや）親
 族（ひとあや）の（ひとあや）う（ひとあや）の（ひとあや）も（ひとあや）あ（ひとあや）ま（ひとあや）其（ひとあや）餘（ひとあや）の（ひとあや）も（ひとあや）人（ひとあや）情（ひとあや）小（ひとあや）い（ひとあや）さ（ひとあや）ら（ひとあや）娼（ひとあや）が（ひとあや）如（ひとあや）く（ひとあや）なり（ひとあや）と（ひとあや）も（ひとあや）吾（ひとあや）公（ひとあや）た（ひとあや）小

从（ひとあや）ん（ひとあや）と（ひとあや）平（ひとあや）生（ひとあや）より（ひとあや）類（ひとあや）人（ひとあや）返（ひとあや）あ（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）實（ひとあや）小（ひとあや）吾（ひとあや）心（ひとあや）中（ひとあや）小（ひとあや）も（ひとあや）本（ひとあや）意（ひとあや）を（ひとあや）ら（ひとあや）い（ひとあや）の（ひとあや）り（ひとあや）其
 事（ひとあや）少（ひとあや）の順（ひとあや）ひ（ひとあや）が（ひとあや）う（ひとあや）。然（ひとあや）し（ひとあや）は（ひとあや）汝（ひとあや）が（ひとあや）い（ひとあや）の（ひとあや）所（ひとあや）真（ひとあや）小（ひとあや）ある（ひとあや）が（ひとあや）蘭（ひとあや）が（ひとあや）心（ひとあや）も（ひとあや）黙（ひとあや）止（ひとあや）が（ひとあや）け（ひとあや）は（ひとあや）ら
 返（ひとあや）し（ひとあや）て（ひとあや）い（ひとあや）の（ひとあや）わ（ひとあや）ね（ひとあや）ども（ひとあや）吾（ひとあや）一（ひとあや）毫（ひとあや）を（ひとあや）捨（ひとあや）ら（ひとあや）ん（ひとあや）の（ひとあや）こ（ひとあや）も（ひとあや）と（ひとあや）も（ひとあや）ある（ひとあや）玉（ひとあや）章（ひとあや）の（ひとあや）ま（ひとあや）ら
 小（ひとあや）返（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）。と（ひとあや）の（ひとあや）ひ（ひとあや）ら（ひとあや）札（ひとあや）小（ひとあや）う（ひとあや）ち（ひとあや）對（ひとあや）ひ（ひとあや）要（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）流（ひとあや）し（ひとあや）う（ひとあや）ち（ひとあや）業（ひとあや）ト（ひとあや）い（ひとあや）は（ひとあや）は（ひとあや）白（ひとあや）ふ（ひとあや）色
 こ（ひとあや）を（ひとあや）め（ひとあや）ぐ（ひとあや）も（ひとあや）お（ひとあや）け（ひとあや）な（ひとあや）く（ひとあや）人（ひとあや）の（ひとあや）望（ひとあや）生（ひとあや）の（ひとあや）あ（ひとあや）や（ひとあや）と（ひとあや）ん（ひとあや）と（ひとあや）一（ひとあや）首（ひとあや）の（ひとあや）歌（ひとあや）と（ひとあや）短（ひとあや）冊（ひとあや）は（ひとあや）徳
 め（ひとあや）て（ひとあや）通（ひとあや）ず（ひとあや）は（ひとあや）汝（ひとあや）も（ひとあや）と（ひとあや）是（ひとあや）と（ひとあや）落（ひとあや）し（ひとあや）。此（ひとあや）後（ひとあや）心（ひとあや）を（ひとあや）改（ひとあや）め（ひとあや）て（ひとあや）親（ひとあや）の（ひとあや）命（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）人（ひとあや）小（ひとあや）説（ひとあや）女（ひとあや）の（ひとあや）た（ひとあや）小
 関（ひとあや）の（ひとあや）中（ひとあや）。倣（ひとあや）し（ひとあや）う（ひとあや）ち（ひとあや）を（ひとあや）身（ひとあや）の（ひとあや）健（ひとあや）ま（ひとあや）と（ひとあや）吾（ひとあや）ハ（ひとあや）祈（ひとあや）思（ひとあや）ひ（ひとあや）む（ひとあや）あり（ひとあや）。哉（ひとあや）回（ひとあや）ち（ひとあや）と（ひとあや）宜（ひとあや）ふ
 と（ひとあや）も（ひとあや）。説（ひとあや）が（ひとあや）い（ひとあや）ふ（ひとあや）あ（ひとあや）ら（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）ま（ひとあや）ら（ひとあや）支（ひとあや）考（ひとあや）の（ひとあや）り（ひとあや）ハ（ひとあや）思（ひとあや）ひ（ひとあや）絶（ひとあや）て（ひとあや）自（ひとあや）ら（ひとあや）情（ひとあや）を（ひとあや）も（ひとあや）之（ひとあや）と（ひとあや）い（ひとあや）ひ
 之（ひとあや）の（ひとあや）と（ひとあや）宜（ひとあや）し（ひとあや）う（ひとあや）阿（ひとあや）漕（ひとあや）の（ひとあや）浦（ひとあや）の（ひとあや）喻（ひとあや）へ（ひとあや）い（ひとあや）ふ（ひとあや）。よ（ひとあや）あ（ひとあや）ら（ひとあや）と（ひとあや）小（ひとあや）文（ひとあや）あ（ひとあや）ら（ひとあや）を（ひとあや）再（ひとあや）回（ひとあや）三（ひとあや）面（ひとあや）通（ひとあや）は（ひとあや）さ（ひとあや）が（ひとあや）。
 自然（ひとあや）人（ひとあや）も（ひとあや）知（ひとあや）り（ひとあや）て（ひとあや）互（ひとあや）小（ひとあや）あ（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）名（ひとあや）の（ひとあや）ま（ひとあや）る（ひとあや）が（ひとあや）。親（ひとあや）と（ひとあや）ま（ひとあや）の（ひとあや）恥（ひとあや）辱（ひとあや）となり（ひとあや）。此（ひとあや）を（ひとあや）疎（ひとあや）の

光りさへ曇らばと成ゆべ。是も程よく諭し移しつゝ尾咲の良
 みての娘冊をけ畏れ向の玉章と法共は携へて飯を食ひ。如此のよう
 をいひ。こゝを遁去せぬ蘭ハその娘冊をけ戴き探頭探松より松小多の子
 紙小金泥りて芝艸を画きたる小。その子跡の艶廉さ笑れまゝ八重桜を
 慕ふて胡蝶の舞小等一まゝ是嶺の山嵐小楓の紅葉の散小似り蘭
 ち多時瞻望して吐息吐きり怨襟うらむ。一筋小はらうらめと昔の入
 の言の多と今こそ思ひ出され終り一文と多ふども把ぬその鬼こゝに
 心を恨えんとすまひと怨りまゝこの娘冊をけ戴き人の志をふり継ぐあや思
 へ生と殺しを化を慰むるあや心悟しといふを小人を恨む樹のうけぬ
 と死にと縁より心決めあわめり。教見等ぞ伴あるといひつゝそれへ抛

掛て金破と平伏泣沈む。尾咲ハ侍より侍て脊搔摩りさめく小練あ
 又ハ筋まの心決と宣ふ命令と捨んとせよ。この物狂ひに彷徨りま
 両親も世小在す。年来日未の恙也殊小他ハ同胞も在されば嬢
 さぬを排斥の接掌の珠のりの命令小も捨て秘蔵のうら身滅疾病で
 世と早う。はらふ小不孝ある況てや狂ふ心の駒の躍はましく身を放捨るバ
 四重五逆の罪よりも。控重うる言所為をう。よく心で推沈めて妻が言を
 望り人彼方さるも今日の如宜いあれど心で嬉ひらね証拠あハの娘冊をけ
 その心を推し任意心小飛立が如狭し思ひもよとも壺小をよ返辞
 まで今宵遭んとつゝせんや恙支るる怪しき心探小て侍母に辞を
 味ひあはせ懲りまふまゝ翌も来りて口説まらまゝ九木の橋をわねども。

ふと死なされし怨をよと今宵密小書りひて妻がとある候もどいと密書り
 小語の蘭のほひを睡拭ひて尾送を祝やうとこそ其方の心は猶毒のの福
 とも。実小西院の山鶴恩志はと云ふあはれども。死神とやういふの縁
 少少此頃の世間の狭くなり要死のと思はれども此方の因果もといひ
 染め小まき溢る涙を袖で拭ふ尾送の空てわと笑ふは死神の實縁ありん
 ぞのう一途の心う追うよの故ふれ成もあはれぬも時序をともめらる肝要
 まづわも角もまゝ再びかの方さる言さん小文認め候と云ふと種て種りけり

第八
 處女筆を彈きて後患を醸も
 義漢途小未通女を憐む

尾送の再び虎次第が子舎へ到ると昨日の景勢細くと告て文を把出し

和君が強面て今日も逆とはらるるの可惜白ひの見様盛も俟て散やせん氣強
 たのこが男も子自殺の事も君の女人の身と捨るを快くと思さるる
 自言さ強よ情の深き弱冠を咬うは推奔の媒をよむ殺者と君もあが
 さん他もまのさあが涙で惜むん支考もあつぬ小あはれども満好が命をも
 捨てと思ひ込るるを小あはれぬも角も做しとて然管小氣強くゆり
 居るまんや。主も我も徳共よ。礼倫の人とあはるるはおまごも願ふべしと思
 ひ究めて言はあり。と切小口説き虎次第の心一ッ小おき餘りて酔るごとく痴
 あらう。その是亦さも決めり。も妻の然然とあはれしが。良あつて眼を開き
 人の心の程も。夢食虫の喻つたわれど。いつまもまま。夫まては吾儕うとき白
 痴を慕ひする心も。今和女弟小艱うまで志を離るる。昨日のひるるの

みる画餅となりて言ぬ小倍まり。然小わらぶと尾嘆が私を祝やれは尾嘆由
 らむ祝やう。你も処実小然なり。けふは言まを言しとも。彼もどうも如何せん
 命死ぬとも勝るとも。開い彼人の隨意とせん。暇まうひとまがら。まが後妻時
 と引詰め心小快うねども固く辞まの死を思ひ詰る赤心を情で知
 らぬ言もつとも争気強くつとせんや。性昔唐山小書生あり。獨住少戸を
 頑固め巻を削きて在けをり。處女来りて戸をうち敲き賊小逐きて雅儀
 小及べり。救ひつとこしけりども。外小伴も人もなり。書生は主知を主もや。吾柳
 下惠小あざれば人の嫌疑あはれと能いど。いと便ちり思へども。憎むごとといひ
 放ちて。在けまふその處女に。淫方ある小立退り。夜わけてつるまが一町をり
 彼方小斫まを在りともん。遠いその書生の志。潔少の似ごとども。頑とりり

のの小近一夫と。其の癖の換まども。その趣の相似り。吾才を潔くせんといへ
 人を殺まふ忍びねが。汝がゆめ所小任まへ。去来その文をとる小把て用き
 へ祝小細々と。思ひのけりて書読め。昨日の子小も把らびりて。返せりるど怨
 むる。その文飾も舟りり。まがよ。あせき。とて。限あり。二月小初雁の群て
 飛ふどくも。虎次弟の心裡小感歎。一巻かへま小。尖に一首の言を
 書らう。いびなき。沈の蓮の香ふゆ。才のあがも。あうね。うらま。是を
 祝う。小虎次弟のその心根の哀ま。床さもまこと。死文にや。う。透し
 認め。遊与せの尾嘆の今さ。小恐し。まを。懐く。懐小収
 め。頼く。帰らう。夫より。後小首尾を。えあ。せ。蘭が子。舎小。忍心を。蘭の
 初ま。小思ひ。礼し。もの。あ。う。か。救。あ。め。胸小。積。思ひの。み。

半もいそぎなきぬくの別道とてさぞ惜まける。案下某生再説云小彼勝間田ある
 重三郎の本年の冬渾家と娶て中睦まうく考ふる小の頃時疫流行
 ちて家毎小礼を並べ医師の東西小奔もして是と扱はん術を尽せと古
 よりこの疾病行りや十小して七八の死に及ぶの災厄天小不測の風雲あれは
 人まゝ不時の疾病あり。佛の所謂之思の火宅ありと説くも小は思の
 ところわらん。是とて重三郎が親族は家族もこま此病小罹つらう。ち世あり
 けが父重兵衛の終小死しぬ。小於てを平合發うち集命を野を送り何
 ち重とちり物し小けが漸く七日八日を経てまゝ重三郎が渾家も死より引
 続きその勢き少のま小燈火の滅さるぬく。近隣こま哀れがて再び葬り
 と成りぬ。追福をさ入營ける重三郎も法共ぬ。この病小罹りければとて症

漸くこの病の漸く小良らうの愛あげ沐浴のまごせむと床小起上りて物を
 して喰ふなり小なりけとてバ家族の勢比大とあも悲れども重三郎の一時
 父と渾家とを失ひその歎き喩ふる小のたを其頃の発熱のまをて人
 事ども半のまをえ半のむむをさるぬのた小ありけまの結り心易くも今
 か病の怠りてとて思ひ彼を想ふに。ま世間のま橋をの胸小塞がて
 食さても甘うを猛き心も今更小弱くて肌立の拙さるねが医師もとて
 容子を診て病の怠り果れども續く不幸を歎くの餘り心神をり勞
 まらり。おの再びこの病の発せんともあまらぬとて只その誓を慰むる業を
 小に肝要なれ。心ひまらと重三郎が母を始め。家族小のい流はせ
 のまのまあり。休むる慰よ。まらわんとて誓法師をち招き

琵琶と弾きし時由あれど。その音凄切。切として多し。心と戚し。むる音。聲の
み。て病人の元。勢を開く。補ふる。も。輕口の浮世物。ま似。或い舞。傀儡師
も。興ある。もの。と。は。る。ま。ど。斤。鄙。少。く。ま。ま。ま。自在。ある。れ。れ。止。つ。名。れ。人
を。う。ち。振。き。心。お。死。る。も。難。読。小。胸。う。ち。暗。ま。と。死。も。あり。志。角。を。て。目。と。過。ひ。夫
世間の慣ひ。うて。家。夫。ある。ゆ。い。化。人。聚。まる。元。この。家。の。重。兵。衛。が。各。かる。と
人。小。超。え。を。笑。し。き。者。小。金。で。貸。情。な。く。ゆ。り。利。を。把。て。一。文。残。り。も。妻。小。遣。を
貸。殖。を。以。て。生涯。の。効。と。も。せ。る。もの。あ。ま。り。初。の。如。き。の。大。難。續。き。多。く。の。英
金。の。費。せ。ども。更。小。不足。の。と。い。わ。れ。も。推。畜。の。多。き。ふ。り。人。と。檀。那。と。と。称。し
て。訪。来。る。もの。も。いと。多。き。なり。此。頃。重。三。郎。が。慰。小。何。を。ぶ。ると。い。ふ。と。思。ひ。く。小
物を。送。り。と。直。後。後。り。く。その。門。下。に。留。り。の。さ。人。舞。う。る。も。ど。か。て。も。い。ま。ま。重。三

郎の果敢と。あ。も。肥。え。ゆ。い。ど。人。ま。ま。ど。う。の。勢。と。眠。さ。の。も。あ。ふ。り。お。い。や。く
業。一。苦。一。推。す。の。心。を。暗。ま。さ。き。初。め。や。あ。ん。と。人。小。語。は。よ。絹。屋。表。代。平。が
女。兒。ある。蘭。の。の。も。う。ち。草。の。上。子。と。人。々。い。渠。を。招。き。て。一。曲。を。奏。さ。せ
る。が。その。興。あ。る。渠。深。慮。小。遣。ひ。て。妾。小。人。の。を。と。小。應。せ。ば。あ。れ。ども。その
家。の。向。小。遣。と。ま。ま。息。と。稟。さ。う。い。つ。違。背。の。あ。ら。ま。な。れ。ば。今。宵。は。頓。と
備。り。と。人。と。勸。め。ら。ま。て。母。親。の。う。ち。難。ひ。人。を。強。て。云。云。の。う。い。ひ。遣。る。小。遣
代。平。丈。婦。も。化。あ。る。ぬ。重。兵。衛。許。の。と。な。れ。ば。辞。む。い。恩。を。知。れ。小。遣。り。と
快。く。送。り。て。居。る。あ。ら。う。女。兒。を。伴。ひ。と。換。屋。を。と。小。遣。て。母。親。の。彼。方
此。方。へ。人。を。走。ら。せ。親。し。き。人。を。呼。び。集。令。今。宵。如。此。と。い。ふ。絹。屋。の。女。兒。が。来
て。琴。と。彈。し。の。い。世。小。遣。稀。る。上。子。と。各。小。遣。懐。く。夫。小。遣。も。花。より。色。

可左會の編巻の目



河左倉刃部巻之四



所伝巻之四

忠藏
夜陸
處女
怪

七五

子酒と敵の准儀をせん。心利なる小奴をもちて、湖水小舟をもちて江難窮れ出
 よる死のうら。時節差合今在らば、賊小斬小鬮と、驗まき愛智川の毛呂
 古魚田上川の氷真さへ小把すて、調理を。吸物鮎取殺後、彼是と心を配
 して、俟間をもち、黄昏小及ぶ、代平の蘭を伴ひて来たりけり。おれも出
 会、おれもまづ客の間へうち通し、菓子と勅め茶、汲汲と懇ある小、代平の
 重三郎がらの程の容子おどと、措く回ひさく不束ある女児が子荒と病の
 人の乳聲をも散さん、あはれ作さる。辞まを伴ひ来りける。鳥辭なる所為、并
 一のくす、おれも小、挨拶を、おれも小、燭を、おれも小、院の准儀、おれも小、とて、
 おれも小、代平の蘭つと、彼は、おれも小、重三郎の月代小、おれも小、伸て、
 おれも小、床と離れて、曲碌め、おれも小、臂突小、おれも小、上坐小、おれも小、左

右あつこのまの男女甲乙とも、こゝろ、おれも小、人あつ。所迫す、おれも小、居あ、おれも小、亦
 何と、おれも小、心あつ、おれも小、改、おれも小、心、おれも小、依、おれも小、持、おれも小、勢、おれも小、味、
 吸物、おれも小、餘、おれも小、並、おれも小、人、おれも小、今、おれも小、盃、おれも小、把、おれも小、酌、
 や、おれも小、二、おれも小、頃、おれも小、望、おれも小、所、おれも小、筆、おれも小、把、
 と、おれも小、人、おれも小、小、おれも小、此、おれも小、方、おれも小、期、おれも小、本、おれも小、筆、おれも小、把、
 子、おれも小、合、おれも小、弾、おれも小、重、おれも小、三、おれも小、郎、おれも小、先、おれも小、刻、おれも小、病、おれも小、酒、おれも小、飲、
 め、おれも小、熱、おれも小、容、おれも小、貌、おれも小、思、おれも小、小、おれも小、鴈、おれも小、下、おれも小、小、おれも小、溢、
 小、揚、おれも小、柳、おれも小、翠、おれも小、を、おれも小、欺、おれも小、牡、おれも小、丹、おれも小、花、おれも小、の、おれも小、笑、
 輕、おれも小、盃、おれも小、たる、おれも小、え、おれも小、も、おれも小、よ、おれも小、も、おれも小、よ、おれも小、も、おれも小、よ、
 あ、おれも小、つ、おれも小、初、おれも小、を、おれも小、親、おれも小、老、おれも小、を、おれも小、祝、おれも小、今、おれも小、宵、おれも小、始、
 思、おれも小、ふ、おれも小、小、おれも小、倍、おれも小、を、おれも小、美、おれも小、さ、おれも小、つ、おれも小、小、おれも小、由、
 緒

方の駒冠等が便を案めて縁と組んと望めりも最なり。吾不憶も渾身を
 先き今こそあまき本後をうて再び娶はるる小至らばとの蘭よ超りのおれ
 然いあれども一入見あれい他へのおき下といふすやど吾のあよなき思ふあり
 他への所一かえりて。如此しくと思ふあぞ頻て已が渾家とせし心比せられ
 菓子まで多自把てとて共え袋柵開く在合する。人形一廻をさるる出
 京都の玉山が細工多うとて人小羅ひつとておん才小進らする。とてその懸
 ちある今秋小蘭のさる下心のありともあまき飲びて頂き収め微笑顔もせ
 重三郎ハ祝ひ毎小心の惑ひは嬋娟さ。いつ倍さるるおれえは漫心ゆうた
 とあり。母親はとてと祝ひいと珍うある蘭ねが筆の曲あや乳も晴しや何
 詩ふあまき元氣の宜き吾儕もあらく安堵せり。是うのたま折ては詰来

のひてその曲を徳一のの癖ううん此処等涉の處女等もみまこの曲とあり
 ども人の性の方不方と糸筋を知りての考え人多き小蘭ねは実稀
 ちある弾べし音色甲賀の刀称の内室が筆の上子とぬまりとて。京洛三界
 浪連のあり。淀伏見ある繁華の地を案め多くその人なり。とて及び一が
 由領地小侍ひ稀ある人あまき却てわし召さるる。美望とあまき吹挙せん
 由館へ上まはるる。諸侯小なるも同前。殊小今の刀称さるる室町
 由所の出頭小威勢をさく由一門の上坐小ありといふるを別てこの嬢の
 標致といひ。立拳動も鄙鼻を。若刀称さるるの注意小入て由寵愛もあ
 る。一家一門にあり。表代平刀称も何某とて鎗一筋の主となり。世小
 眼愛も花明べきといふ。表代平微笑い。美れゆする物語まづく此方

小望のぞもあふまき有あれがと出来できもせむ牛うし半はん連れん商人しやうじんの児こハ商人しやうじんが相應あはり
 とひ掛かてらち笑わらへハ傍かたわら聴きまる重ちゆう三さん郎らう。开ひらハ翁おきなが最もなり。揚やう貴き妃ひ帝ていの影かげと
 ぬく。一いつ門もん家け貴きふありし由よし馬ま嵬がいの怨うらみもあふまき。實じつ小こ鄙び人にんハ馬ま連れんのかこ
 こ善よれと動どう搖ごう小こなり。夜よも稍あやう小こ更さら由よしが来きり人ひと々々暇ひまを告つて立たつ故ゆゑ小
 長ちやう代だい平へいも暇ひまを乞こへてさち出でんとす。成なり重ちゆう三さんハ強ちやう子し迷ま憾がさ小こ引ひどめ今いま宵よハい
 ちち更さらら小こ更さら女にょと連れんて夜よの了り過あり悔くれとも返かへらば一いつ宿しゆくなり。翌あすハ早はや天てん油あぶら
 更さららと切せりど。長ちやう代だい平へいハ固こく辨べん。假かり令しやう夜よ更さらふ方かたとて由よし小こ別べつる
 一いつ日にち邑ちやううち。何なに条じょうもつりしと殊こと子し向むかり廊らうの老らう少せう速すみひふ来きりてハ先まづ々
 暇ひままうさんとして夫つま々々へ金かね新しんなり。門かどの多おほ成なりらち由よし重ちゆう三さん郎らうハまきささ小
 次つぎ棟むねの花はなを散ちらち心こころ沈しづみなりけ行ゆ迹あとをうち瞻あやむ望むれど草くさがと續つ松まつの

光ひかりアも入いるはあまは彼かの方かたの空そらの暮くれいまでそのまう臥ふ房ぼうへ入いける。翌あす夜よあけ
 ても蘭らんが婢ひめ娟けいある姿すがた眼まなこ小こ遮さり。恍あや惚とどして居かりけり。斯かくて後のちも折おふふと
 人ひとを遣やりて蘭らんを招まきけりとも長ちやう代だい平へいの夜よの動どう静じやう重ちゆう三さん郎らうが女にょ見み小
 心こころわり気げある。渠そのの新しん婦ふも死ししむまば若わ女にょ見みを名な望のぞまきしん然しかると死しハ
 後のちより。身みある家いへあては只ただ官くわん小こ鄙びらんも復かへり計けいらひ悪あきさる由よし出来でき
 せん。さ遠とほく敷しきまる小こ若わとと絆つ小こ假かり託たく武ぶいまる。女にょ見みが心こころ沈しづみあふとた松まつ
 小このひ紛まららしく。夫つまより後のちハ絶たへゆるむ重ちゆう三さん郎らうハ且かつ若わ小こと思おもふの切せられが
 人ひとを明あく枕まくら小こ言こと又またんかと思おもひけれども父ちちと渾つ身みが世よを去さてよう誠まこと干かるぬ
 小こ人の思おもいんと然しか願ねがふ。胸むねッ小こ収こめり。時ときの到いたりて俟まち小こけり。粵えつ小こ千せん景けいの
 忠ちゆう義ぎい。の程ほど少すくの暇ひまをひて思おもふ。勝かつ間ま田でんある重ちゆう三さん郎らうハ椎すいよりの朋ともあり

ちをおと辞まじ小まじ紛まじままじと久ひさき訪とらむむ先あま頃あま父ちちと渾つま家かみとと辞まじせまじとと死し生なまとと渠みち
 大病おほいびやうの中なかのなかで親おやと物ものももいいままのの程ほどいいやや怠たりりて人ひと小こも逢あはあれればば久ひさ々々
 之この對たい面めんをを悔くりりとと任まかせんせんとと想おもひひ如ごと月げつのの始はじめめののてていいままとと餘よ寒かんのの速すみききをを
 ままとと牙かめめとと比ひ叡えい瓦わ小こ霰せん交まじつつふふ降ふるる驟あつ雨ま忠ちゆう花かのの傘かさととちち控ひかげげとと訪とらひひ
 わけわけ六む夫ふとと又またより重ぢゆう三さん郎らうのの居ゐ間まへへ通とほりりてて舊ふる情なさけをを述のたまふふことこといいとと濃こゆゆりりたりたり忠ちゆう花かも
 ままとと何なにららままとといいふふべべききのの具ぐ小こ述のたまふふ依よ病びやう着きもも右みぎ左ひだり小こ果は敢かんとといいかかぬぬよよとと心こころ
 地ちののいいつつ小こ在あるるをを重おもくくのの不ふ幸さいゆゆてて一ひといい花はな舞まのの所ところ為なるるああんん自みづかららとと忠ちゆう一ひと
 ののひひ福ふくとといいとと親おや心こころあるる言こと言こととといいてて宜よろふふとと種たねののいい花はな舞まのの肥ひままもも拙せつぎぎ
 ねねどどとと名な此この通とほりり鬚ひげのの剃そりり近ちかままふふ本ほん快かききををままととななりりとと夫それよりより互たがひ小こ物もの語ごのの
 うちうち夕ゆふ餉かひああとと出いででいいりり思おもひひをを時ときをを後あとしてしてとと名な亥よる刻まへ前まへふふ由よしなるるぬぬんん本ほん来き

本ほん来き暇ひまままううささんんとと宵よ月げつななららばば續つ松まつもも照てるささげげ行ゆくくとといいままとと我わが于こななるるぬぬ小こ
 ままのの頃ころのの僻へここしてして叢むら雲も夕ゆふにに地ち月げつをを覆おひひ微こ雨あめささ降ふ来きれればば忠ちゆう花かのの傘かさうちうち
 閑ひらささとと例れい別べつととるる田た面めんのの細こ乃の右みぎへへ左ひだりへへああままききりりとと若わ橋はし人ひと作しやう挂かけけ右みぎ子こ小こ一ひと條じょうのの流なが
 ままあありりそのその岸きををいいはは葎は茅ものの透とほるるももああららばば茂さかええとといいままとと今いまいい夫それささとと冬ふゆががままとと
 ちち堆たいままききそのその下した小こ春はるのの若わ芽めのの萌も出でてて顔かほてて茂さからんん風ふう情じやうののここがが折をりり
 ととのの河か岸ぎしのの水みづ音ねささくく空そらささくくまま小こ忠ちゆう花かのの詩うたややるる遙とほ此この方かた小こ惶おそととてて祝いわんん
 ととすすれれどもども月つき黒くろくくままとと枯く芦あしのの重おもささりりてて定さだりりいいのの眼めももささりりぞぞままとと徐ゆる々々
 ちちとと近ちかづづきき檀たんのの樹き小こままととささりりてて眼めままとといいままとと六む年ねん齡れい十じゅう七しち八はちのの處ところ女むすめああららぶぶ
 衣服いふくのの脱ぬぎぎてて傍かたわらららもも川かみのの岸ぎしををささりり下くだりりてて西にしのの水みづをを激おどららしし渾つま身み小こ
 沃よくききををああららんん吶な々々とと咳せきまま居ゐままりり忠ちゆう花かのの牙かをを潜ひそめめままとと妻つま時とき侯うむむききぬぬ小こ

やう。是ぞ慥不在人なり。然少をもまき末若き不ふびん便ある景勢あつちうる月つき思おも
 くして空々々々ねど乞食遊人の件あつちあつち。邑むらの老の女兒むすめあや。この思橋おもはし
 出吾が父の世よな来り組下くみくだなり。渠みちの万端ばんたんの届とどき。慈仁じにんの跡あとき人ひとおれが。
 その組下くみくだ小狂人せうきやうじんありとも。夜陰やゐんふ出でて生死しんじども。園うゑんりが死しを顧かへりど捨すてち。如ごと
 死しの无頼むらいの者ものなり。這この代所しろよよりや来きりけんとの川岸かわぎしをあつち。涉あせ
 中なへは背せいのさぞ。忽たちまち沈溺しんじやくと死しまきふ。見過みまさんんのかい。あつち。あつち。あつち。
 今いま夢ゆめを掛かるが。却かへてそまふ。深ふかき方かたへやままつとん。如何いかあつち。陸りくへ引ひ
 揚あげ。助すけま。結むすむ思おもひ。雲くも時とき躑しゆく躑しゆく居ゐり。畢ひま竟まつ。何なにのゆや。次つぎの巻まきを
 親おやて知しらるん

忠勇阿佐倉日記初輯卷之四 畢

